

第三者評価結果シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人エール・フォーユー

②評価調査者研修修了番号

SK15017
S15006
S16005

③施設名等

名称：	七窪思恩園
施設長氏名：	増田康平
定員：	63名
所在地（都道府県）：	山形県
所在地（市町村以下）：	鶴岡市下川字窪畑1-288
T E L：	0235-75-2230
U R L：	

【施設の概要】

開設年月日	1929/5/20
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 思恩会
職員数 常勤職員：	39名
職員数 非常勤職員：	4名
専門職員の名称（ア）	社会福祉士
上記専門職員の人数：	4名
専門職員の名称（イ）	精神保健福祉士・認定心理士
上記専門職員の人数：	2名
専門職員の名称（ウ）	保育士
上記専門職員の人数：	21名
専門職員の名称（エ）	看護師
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（オ）	管理栄養士・栄養士
上記専門職員の人数：	2名
専門職員の名称（カ）	調理師
上記専門職員の人数：	3名
施設設備の概要（ア）居室数：	1人部屋：23室、2人部屋：12室、4人部屋：4室
施設設備の概要（イ）設備等：	リビング・キッチン：4ヶ所
施設設備の概要（ウ）：	居間・食堂：1ヶ所
施設設備の概要（エ）：	グループ食堂：1ヶ所

④理念・基本方針

<p>【理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係法令などを遵守し、児童の人権を尊重した支援を行なう。 ・ 愛の精神と思恩（親・師・社会・自然）の心に基づき、児童が豊かで安心した生活を送れるよう支援する。 ・ 児童養護施設としての使命と役割を果たす。 <p>【基本方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもから高齢者までの支援を展開し、地域と共に運営する施設づくりを推進する。 ・ 多様な関係機関、団体、住民との連携・協働により地域の福祉課題に取り組む。 ・ 利用者の自己決定を尊重し、権利擁護を図る。
--

⑤施設の特徴的な取組

小規模グループケアを3カ所設置し、シミュレーションしながら地域小規模児童養護施設の開設に向け取り組みを行っている。
児童自治会が園内の行事などに積極的に参画している。
法人設立当時から伝統を大切に、キリスト教や五十嵐喜廣先生にまつわる行事を行っている。
暴力問題への対応として、安全委員会を立ち上げ取り組みを開始した。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2017/5/22
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2017/10/24
受審回数	1回
前回の受審時期	平成26年度

⑦総評

◇評価の高い点

1、組織的な質向上への取組

自己評価は全職員で毎年実施し、ユニット会議やリーダー会議・養護会議を通して出された課題を業務検討委員会で検討のうえ改善計画として示し、継続的にPDCA（計画・実行・評価・見直し）サイクルを行い職員の質向上を図っています。平成29年度の事業計画の重点事項として「内部統制・法令遵守の周知徹底を図る」ことを掲げ、遵守事項等を再確認しながら養育支援に繋げています。また「児童養護施設における人権擁護のためのチェックリスト」を活用して、人権擁護の推進と人権侵害の防止に取り組んでいます。

2、施設の小規模化・家庭的養護推進計画の取組

施設では平成15年より小規模での生活支援を実施し、家庭的な養護で情緒面での安定を図り個別的な支援を行うことが子どもの成長に良い影響を与えています。中・長期計画は家庭的養護推進計画を掲げ、地域小規模児童養護施設としてのグループホームを目指しています。職員で構成された「七窪思恩園の十年後を考える会」で調査・検討を行い、平成31年度には1ヶ所、平成32年度には2ヶ所目の開設が予定されています。スムーズに地域へ移行できるように小規模グループを生かした処遇や家事体験で食事作りなどを行い、子どもと職員が適応力を高められるよう取り組んでいます。

◇改善が求められる点

1、学習への取組

小学生は25名と多く、生活の様子を学校と施設が連絡ノートで毎日の状況確認を行っています。大学生や地域の学習ボランティアの協力をもらい学力の向上に努め、子ども達はリビングで勉強を行っていますが、リビングは、食事や団らんの場であり居室は目が届きにくい学習出来る環境は不十分と思われる。一人ひとりが落ち着いて学習できる環境の整備と意欲を引き出す工夫などを期待します。

2、職場の体制強化に向けた取組

職員から上げられてきた課題等は業務改善委員会で検討され、勤務体制や勤務配分など業務改善を行い改善に取り組んでいます。各フロアの責任者を中心に職場づくりを行っており、子ども達の処遇や問題行動なども把握し健全な育成を目指していますが、職員同士の連携と情報の共有を図り職場の体制強化に期待します。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

全職員で第三者評価の取り組みをさせていただきました。評価しにくい項目もありましたが、結果を真摯に受け止め、全職員にも評価結果の周知を図り改善に向けて取り組んでまいります。

評価の高かった点については今後も継続し、より良い支援ができるよう充実を図るとともに、改善しなければならない点については、検討していきたいと考えております。七窪思恩園にとって足りない部分を再確認できる良い機会を与えて下さりましてありがとうございました。

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果	
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b	1
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書(事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等)に記載されている。		
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。		
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。		
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。		
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。		
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。		
【コメント】			
理念を玄関に掲示しパンフレットや広報誌にも明示して、年度初めに事業計画について会議等で周知を図っている。子どもへは理念と行事の説明はしているが、保護者にはそれぞれに特性があり、ケースバイケースで説明を行っている。			

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果	
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	2
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。		
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。		
【コメント】			
児童養護施設運営状況等や児童福祉政策の動向を把握しながら経営状況の方向性を示している。「七窪思恩園の十年後を考える会」で今後の方針について検討し、中・長期計画や事業計画に反映させている。			

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a	3
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。		
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。		
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。		
<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。			
【コメント】			
勤務状況・職員配置等の課題を明確にして電子データの中の掲示板で周知し、リーダー会議や養護会議で共有を図っている。組織体制の強化・人材育成・労務管理などを課題として業務改善に取り組んでいる。			

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果		
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a	4
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。		
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。		
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。		
<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。			
【コメント】			
中・長期計画は「家庭的養護推進計画」を策定し年度ごとのスケジュール表にし明確にしている。地域小規模児童養護施設を「七窪思恩園の十年後を考える会」で検討され、平成31年度に1ヶ所・平成32年度には2ヶ所目の開設を目指している。			

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b	5
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。		
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。		
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。		
<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。			
【コメント】			
地域小規模児童養護施設の開設に向けて小規模グループ内で食事作り等を行い、また今年度の事業計画にもユニット及び小規模グループケアを生かした処遇や家事体験のプログラムの整備を掲げ単年度の事業計画に反映している。			

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	6
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。		
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。		
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。		
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。		

【コメント】

ユニット会議や養護会議等の各種会議での意見・要望をもとに事業計画を策定し、年度初めに職員への周知を図っている。年度半ばに進捗状況を確認し評価・見直しを行っている。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c	7
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。		
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。		
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。		

【コメント】

保護者等にはさまざまな理由で考慮することもあり、必要に応じて説明を行うようにしている。子ども達には行事計画等の説明を行っているが、施設の事業計画の内容を分かりやすく説明した資料を作成し、理解しやすい説明を期待したい。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	8
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。		
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。		

【コメント】

職員は「人権擁護のためのチェックリスト」を活用し、定期的に振り返りながら意識向上に繋げている。毎年自己評価を実施し、PDCA(計画・実行・評価・見直し)のサイクルに基いて行われ業務改善に向け取り組んでいる。

	② 9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a	9
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。		
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。		
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。		
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。		
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。		
【コメント】 各種会議や「園の十年後を考える検討会」で出た課題や、評価結果から見てきたものについては業務改善検討委員会で検討し、改善実施計画を立て周知している。			

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

	(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果	
	① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	10
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。		
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。		
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。		
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。		
【コメント】 施設長は自らの役割・責任について職務分担表に明示すると共に広報誌にも掲載し、地域や関係団体に配布し理解と支援を得られるよう努めている。養護会議や全職員の会議で方向性を説明し十分に伝えている。			
	② 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	11
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。		
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。		
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。		
【コメント】 法令遵守については事業計画書の重点事項にも掲げ、職員へ法令遵守マニュアルを配布している。また、法令遵守ができていないかアンケート調査を実施し、職員との面談を行い周知を図っている。施設長は最新の情報を収集し養育支援の質向上に努めている。			

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a	12
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。		
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。		
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。		
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。		

【コメント】

施設長は養護会議やリーダー会議にも参画し現場からの声を大切にしながら、職員と定期的に面接し課題を把握して意見や助言を行い組織体制の強化に向け取り組んでいる。

②	13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	13
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。		
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。		

【コメント】

業務マニュアルを整備し、業務改善委員会を随時開催し、養育・支援に関わる課題を話し合いマニュアルの改善や勤務体制の見直し質向上を目指している。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

第三者
評価結果

①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b	14
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。		
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。		
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。		

【コメント】

人材の確保や人事権については法人本部において計画的に行い、必要とされる人材の確保に努めている。職員の育成についてもマニュアルを作成し研修を重ねて質の高い養育・支援の実現を目指して取り組んでいる。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b	15
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。		
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。		
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。		
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。		
	<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができています。		

【コメント】

人事管理については、法人の規程と就業規則に基づいて処遇改善や労務管理の見直しを行い、職員の登用試験なども実施されておりそれぞれが職掌範囲の中で業務に励んでいる。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b	16
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。		
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。		
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。		
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。		
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。		
	<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。		

【コメント】

勤務形態や休暇の消費実態等を把握し、働きやすい職場づくりを目指して取り組んでいる。勤務の急な変更などにはユニット内や隣接するフロアとの協力に対応し、各フロアの責任者を中心に心身の健康と安全の確保・ワークライフバランスにも配慮した職場づくりが行われている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	17
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。		
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。		

【コメント】

施設長が行う定期的な職員との面談を通じてそれぞれが掲げる目標や成果について確認し、日常においても職員の様子を見ながら話を聞き、その時の状況に合わせて助言や指導を行っている。職員もモチベーションを高めて保育士資格や精神保健福祉士・社会福祉士などの資格取得を目指して取り組んでいる。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	18
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。		
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。		
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。		

【コメント】

子ども達の抱える複雑多様化する問題に対して、職員の専門性と資質の向上を目的に研修計画を作成し、新任研修をはじめ中堅職研修・指導者研修や事務担当者研修など階層別、職種別、テーマ別に参加し養育・支援の向上を図っている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b	19
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。		
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。		
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。		

【コメント】

県社会福祉研修センターが主催する新任者研修やケアリーダー研修・職場研修指導者研修、児童養護施設協議会が主催のファミリーソーシャルワーク研修・中堅職員研修・アフター研修など県内外で実施される研修に派遣し、計画的に教育・研修が実施されている。研修後は伝達研修や資料を配布して全体のスキルアップを図り施設の質向上に繋げている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	20
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。		
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。		
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。		

【コメント】

福祉や看護の専門職を目指す実習生の積極的な受け入れを行い、担当職員を配置して実習生指導指針などのマニュアルも策定されている。資格取得のための実習については学校側からのカリキュラムと内容に応じたプログラムを用意して、効果的な実習や育成研修が行われている。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	21
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。		
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。		
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。		
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。		
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。		

【コメント】

第三者評価を受審し、ホームページや広報誌・パンフレット等で情報公開もしている。地区にも広報誌を全戸配布して施設の中の活動について理解を図り、開かれた施設運営を目指している。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b	22
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。		
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。		
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。		
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。		
	<input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。		

【コメント】

法人による内部監査と評議委員会での承認や県からの監査を受け、県からは勤務時間の配分についての指導や労働基準監督署の臨検もあって勤務形態の改善策を検討し取り組んでいる。透明性の高い適正な経営・運営に取り組んでいるが財務諸表や会計管理体制の整備状況など、必要に応じて外部の専門家による助言を得られるように取り組むことが望ましい。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果	
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b	23
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。		
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。		
	<input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。		

【コメント】

地域との関わり方については社会の一員として地域に開かれた施設運営を行うことを目標として掲げているが、子どもの中には疾患を持つ子もおり、自由に遊ばせることもできず、個人の居室に出入りすることも禁じられている。会議の中で今後の取り組むべき課題として環境づくりについて検討を行っている。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b	24
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。		
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。		
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している		
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。		

【コメント】

ボランティア受入れマニュアルを整備し、広報誌にもボランティア募集を載せている。大学生のボランティアなどが遊びを中心に支援しており、小中学生・高校生との交流についてはそれぞれの家庭と施設とのギャップを懸念し、学校教育への協力についても守秘義務を考慮して実施されていないが、施設の特長や地域の実情に即した取組を期待したい。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b	25
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。		
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。		
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。		

【コメント】

子どもが卒園し自立するときに関係する市の福祉課や施設を含め、関係機関とは連携を密にしているがリストの作成までには至らず他機関で作成したものを引用されている。職員が関係機関や団体の機能・連絡方法・内容などが記載された資料を活用できるようにしておくことが望ましい。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 施設が有する機能を地域に還元している。	b	26
	<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。		
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。		
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。		

【コメント】

地域で行われる球技大会の練習などには体育館を開放しているものの、地域との行事も少なく子どもの特性を考慮して積極的には行われていない。今後は体育館を地域の避難場所にすることや地域のコミュニティセンターとしての活用などが検討されている。

②	27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b	27
	<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。		
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。		

【コメント】

施設運営委員会に地域の主任児童委員や民生委員も参加して地域からのニーズを把握し、子育てについての相談や支援などを行い、セミナーや配食サービスとショートステイ・トワイライト事業などが行われている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。

第三者
評価結果

①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b	28
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。		

【コメント】

子どものQOL（生活の質）の向上を目指し安全委員会の取組として担当職員以外の職員も子ども達と関わり思いを汲み取っている。また「人権擁護のためのチェックリスト」で職員全員が取組、会議の場で報告を行い共通の理解で意識向上と実践に繋げている。

②	29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	c	29
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。		
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。		
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。		

【コメント】

職員に子どものプライバシー保護や権利擁護について、資料を配布し周知を図っている。生活場面におけるプライベート空間の立ち入りについても注意喚起し、子どもを尊重したプライバシー保護の徹底が図られているが、マニュアルの整備と研修等の機会を通じて職員の意思統一を期待したい。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b	30
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。		
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。		
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。		

【コメント】

施設の理念や概要をホームページに載せて公開している。ホームページのブログは子ども達の様子等を、プライバシー保護を保ったうえで写真を掲載するなど情報提供を行っている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	c	31
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。		
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。		
	<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。		
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。		

【コメント】

児童相談所からの措置入所が多いため、子どもには分かりやすく資料を用いながら説明を行っているが、理解のできない保護者等には子どもの権利擁護や最善の利益を守るための説明は行われていないため状況を考慮して工夫されることを期待したい。

③	32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b	32
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。		
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。		
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。		
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。		

【コメント】

措置変更時はケース記録やフェースシートを使用しており、地域・家庭への移行の際はその子どものユニット担当者が引継ぎ文書を作成している。退所時の説明文書や退所後の実際の対応記録等の文書の保管に期待したい。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	c	33
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。		
	<input type="checkbox"/> 子どものへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。		
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。		
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。		

【コメント】

子ども達でつくる自治会や夕食後に行われるユニット毎の話し合いの場で意見や意向の把握に努めているが、子どもの満足に関する調査等は行われていない。収集した意見等を安全委員会で検討し子ども達の要望に沿えるようにしているが、アンケート調査など子どもの満足の向上に向けた仕組みの整備が望まれる。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b	34
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。		
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。		
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。		
	<input type="checkbox"/> 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。		
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。		

【コメント】

苦情解決第三者委員会を設置し意見箱等も設けて苦情解決体制を整備している。苦情対応窓口を設け、忌憚のない意見や苦情を真摯に受け止め苦情解決に努めている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	c	35
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。		

【コメント】

子どもの意見や相談に関する取組については、苦情対応規程を設けて周知を図り、職員は子ども達に気さくに声かけを行って意見等の出しやすい雰囲気づくりや環境にも配慮しているが、子ども達に分かり易く説明できる文書の作成や周知までは行われていない。子どもと職員の関係づくりに努め、子どもが自由に意見を表明できるようにすることを期待したい。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b	36
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。		
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。		

【コメント】

子どもからの相談や意見等を苦情綴りやユニット会議記録、対応記録、ケース記録に記載して職員全員が把握できるようにしている。子ども達の不安感を払拭するため意見要望等については、説明対応を行い安心安全に繋げている。

<p>(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。</p>	<p>第三者 評価結果</p>	
<p>① 37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。</p> <p><input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。</p>	<p>b</p>	<p>37</p>
<p>【コメント】</p> <p>子ども達の日頃の出来事について聞き取りを行い、事例を安全委員会に図り事故報告やヒヤリハットで周知している。県及び児童相談所の指導を受け、8月に安全委員会を立ち上げリスクマネジメント体制を整備している。</p>		
<p>② 38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。</p> <p><input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。</p>	<p>a</p>	<p>38</p>
<p>【コメント】</p> <p>ノロウイルスなど感染症の発生時の対応については、看護師が指導を行い嘔吐物の処理やガード方法等、実践しながらの研修訓練等を実施し万全を期している。</p>		

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b	39
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。		
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。		
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。		
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。		
	<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。		
【コメント】			
施設全体の災害総合訓練を年2回実施している他に、月初めに夜間想定した夜勤者の対応方法として、初期消火・通報・避難誘導や避難場所の確認及び子どもの人数掌握までの訓練を行っている。また災害想定を変えながら実施して子どもの安全確保に努めている。			

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果	
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b	40
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。		
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。		
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。		
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。		
【コメント】			
養育・支援についての実施方法を文書化し、明示して各種資料等も個々に配布されているが、職員の周知不足が懸念されます。職員の理解を図るための取組や工夫を期待したい。			
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b	41
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。		
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。		
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。		
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。		
【コメント】			
養育・支援の標準的な実施方法については、児童相談所と協議しながら子どもの意見が反映に結びつくよう考慮して、随時職員間で話し合い見直しを行っている。			

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b	42
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。		
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。		
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。		

【コメント】

自立支援計画を策定するにあたりアセスメントを実施し、ケース記録からも参考にして担当者で協議を行い、子どもにとってふさわしい自立に向けた支援計画を策定している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b	43
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。		
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。		

【コメント】

子どもが自立したときに困らないように、社会生活を始める時うまくできるようにと年齢別に子どもに合わせたPDCA(計画・実行・評価・見直し)サイクルの継続実施をしている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	b	44
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。		
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。		
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。		
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。		

【コメント】

養育・支援の記録はパソコン内の様式に入力されており、職員がいつでも閲覧できるシステムを構築して共有化を図っている。パソコンのセキュリティー対策もされてUSBメモリの持ち出し禁止やウイルスチェックをするなど、記録の漏洩防止にも努めている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b	45
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。		
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。		
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。		
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。		
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。		

【コメント】

職員は運営規程に基づいて、業務上知り得た入所児童及びその家族の個人情報の漏えい防止や守秘義務に努めている。

内容評価基準（41項目） A-1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果	
<p>① A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。</p>	b	A1
【コメント】		
<p>日々の養育・支援の中で「子どもの最善の利益」を目指して関わり、子どもがものごとを判断できるようにしている。ユニット会議・養護会議やケースカンファレンスを毎月実施し、一人ひとりに合わせた支援方法を検討している。</p>		
<p>② A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。</p>	b	A2
【コメント】		
<p>精神的な情緒面に十分配慮し、子どもの置かれている環境や発達段階に応じて児童相談所と連携して情報を伝えるようにしている。</p>		

(2) 権利についての説明

①	A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	c	A3
	<input type="checkbox"/> 定期的に全体場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。		
	<input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。		
	<input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)		
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。		
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。		

【コメント】

人権擁護のためのチェックリストを活用して子どもの権利を尊重した支援に取組、子どもには権利ノートを配布しているが説明や学習会までは行われていない。小中学生・高校生など子どもの成長に応じて生活の中で守られている権利等について、具体的に分かり易く説明されることが望まれる。

(3) 他者の尊重

①	A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	b	A4
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもとが個別にふれあう時間を確保している。		
	<input type="checkbox"/> 喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援をしている。		
	<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するよう支援している。		

【コメント】

子ども間でのトラブルは子ども同士で解決できるよう職員が良い方向に導き、上手く解決できた時はほめて子どもの心を大切にしている。地域社会への参加や個別のレクリエーションでは担当者とは出掛け触れ合う時間を設け、子どもとの信頼関係を築き支援している。

(4) 被措置児童等虐待対応

①	A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a	A5
	<input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。		
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。		
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。		

【コメント】

山形県児童養護施設協議会で作成した被措置児童虐待防止マニュアルを引用し、体罰等の禁止について研修を行い周知を図っている。

②	A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b	A6
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつけられている。		
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。		
	<input type="checkbox"/> 暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。		
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。		
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。		

【コメント】

日常生活の中でも子どもへの関わりについて確認し、不適切な部分については安全委員会で取り上げ子どもからの訴えやサインを見逃さないよう不適切な関わりの防止を徹底している。

③	A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b	A7
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。		
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。		
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。		
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。		

【コメント】

被措置児童虐待の届出・通告制度について対応マニュアルを整備してスタッフルーム、事務所に設置し、日常的に活用できるよう用意されている。

<p>(5) 思想や信教の自由の保障</p>	<p>① A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設において子どもの思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。</p> <p><input type="checkbox"/>保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。</p>	<p>a</p>	<p>A8</p>
<p>【コメント】</p> <p>子どもの思想や信教の自由は意思を尊重し自由が守られている。</p>			
<p>(6) こどもの意向や主体性への配慮</p>	<p>① A9 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。</p> <p><input type="checkbox"/>入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/>分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。</p>	<p>b</p>	<p>A9</p>
<p>【コメント】</p> <p>入所時に担当者が付き添い個別的に丁寧な関わりをしている。子ども全員で暖かく迎え、子ども同士の輪に入れるよう細やかな配慮をしながら不安の解消に努めている。</p>			
	<p>② A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。</p>	<p>b</p>	<p>A10</p>
<p>【コメント】</p> <p>子どもの意向・要望は児童自治会や部屋会議で聞き取りを実施している。子どもの希望と役割りを把握し意向を大切にしながら、生活全般について共に考え改善に向け取り組んでいる。</p>			

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活

①	A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	b	A11
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜改変している。		
	<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。		
	<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。		

【コメント】

生活全般において子どもからの聞き取りを行い、子どもを主体にした関わりをしている。施設行事や希望に応じて地域のスポーツ少年団・よさこいサークル活動にも参加するなど子どもを尊重し支援している。

②	A12 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b	A12
	<input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。		
	<input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。		

【コメント】

発達や年齢に応じて支援方法を考慮し、小学生の小遣いについては職員が管理している。中学生以上は自己管理を勧め、高校生は小遣い帳も付けている。高校三年生には5日分の食費を与え、一人で買い物を行い自炊するなど生活体験することで経済感覚が身に付くよう支援している。

(8) 継続性とアフターケア

①	A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	b	A13
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。		
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。		
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。		
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。		

【コメント】

家庭復帰にあたって家庭支援専門相談員が家庭訪問を行い家族の状況や意向を確認し、児童相談所・その他の機関と連携している。就職しても仕事に慣れるまでは住まいを施設にすることもでき、退所後スムーズにスタートラインに立てるよう継続支援を行っている。

	<p>② A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。</p>	b	A14
<p>【コメント】 就職や進学について特別支援学校や関係機関との連携に努め、平成28年度は全員が希望した進路に進んでいる。進学が叶わない場合でも措置延長の対応を行っている。</p>			
	<p>③ A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。</p> <p><input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。</p>	b	A15
<p>【コメント】 退所後は要保護のためのグループホームや自立支援援助ホームなどと連携を図り支援に努めている。把握の仕組みと相談などの方法について、子どもの就労前に周知を図ることが望まれる。</p>			

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果	
<p>① A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。</p>	b	A16
【コメント】		
<p>児童相談所からの資料だけでは不足な部分もあり、ケースカンファレンスを通して子どもの成育歴や家族構成など背景にあるものを理解している。子どものニーズについて職員間で共有し支援しているが、アンケートなども活用し子ども一人ひとりが抱える課題について把握するよう期待したい。</p>		
<p>② A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。</p> <p><input type="checkbox"/>高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/>夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。</p>	b	A17
【コメント】		
<p>児童自立支援計画に基づいて生活支援を行い、情緒面で問題を抱えている子ども達に小規模グループ化や担当制によることで職員と子どもとの距離が近くなり対応も可能となっている。個別的な関わりや柔軟な対応については十分とは言えないが、見守りを重視してハード・ソフトの両面で支援している。</p>		

③	A18 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b	A18
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。		
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。		
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。		
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。		
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。		

【コメント】

各ユニットに必ず職員が残って子ども達を見守るようにしており、子ども達が主体的に問題解決できるように状況に応じて支援し、適切な声掛けとアドバイスが行われている。

④	A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b	A19
	<input type="checkbox"/> 施設内での保育が、年齢や発育状況に応じたプログラムの下、実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。		
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。		
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。		
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。		
	<input type="checkbox"/> 幼稚園に就園させている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(ボランティア等)が十分に活用されている。		

【コメント】

子ども達の発達段階に応じた玩具や学習教材・図書などをそろえているが十分とは言えない。保育ボランティアや学習ボランティアを活用しスポ少・習い事・塾などにも通い、これまで満たされなかった子ども達のニーズに可能な限り対応して固定概念にとらわれない支援が行われている。

⑤	A20 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b	A20
	<input type="checkbox"/> 職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気の中で秩序ある生活が営まれている。		
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。		
	<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。		

【コメント】

ユニット内でそれぞれの子どもの合った指導方法を確認し対応しているが、中には穏やかに生活ができない子どももおり常に環境に配慮している。「しなければならないこと」「してはならないこと」が理解できるように箇条書きに「やくそくごと」を掲示し、基本的な生活習慣が身につくよう支援している。

(2) 食生活

①	A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	b	A21
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。		
	<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。		
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。		
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。		
	<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎えての食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。		

【コメント】

発達段階に応じた食生活の基本や食のマナーなどの基本的な食習慣が身につくように指導し、ユニット調理を通して家庭的な雰囲気の中で楽しみながら食事ができるようにしている。

②	A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a	A22
	<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。		
	<input type="checkbox"/> 少数の子どもの対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。		

【コメント】

嗜好調査を行って献立にも配慮し、栄養面を考慮したバランスの取れた食事が提供されている。残菜調査で状況を見ながら献立にも反映されている。

③	A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	b	A23
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。		
	<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 食品分類やおやつ摂り方等、栄養についての正しい知識を教えている。		
	<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。		
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。		
	<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。		
	<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。		
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。		

【コメント】

職員も子ども達と一緒に食事をとり基本的な食事マナーが身につくように指導している。配膳や食器洗いなどを習慣化し、ユニット毎の調理には畑からの食材を使って子ども達も参加し、日常的に食習慣の習得に向けた支援が行われている。

(3) 衣生活

①	A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b	A24
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。		
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。		
	<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体にあつたものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。		
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。		
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。		
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。		

【コメント】

目立ちたがる子どももいるが自己表現と捉えている。衣類は子どもと一緒に選んで購入し、自分好みのものを着用しているが、一人ひとりの身だしなみを大切に季節に合わせた衣服を身に着けるよう支援している。

(4) 住生活

①	A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	b	A25
	<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。		
	<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。		
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。		
	<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。		
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。		
	<input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。		

【コメント】

各部屋の掃除は子ども達と一緒に週末に行っているが、子ども達の了解を得て登校した後にも確認をしている。気持ちが落ち着かないと部屋が片付けられなかったりするため、持ち物を確認したり整理整頓や掃除などの習慣が身につくよう子どもの状況に応じた支援が行われている。

②	A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	a	A26
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。		
	<input type="checkbox"/> リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。		
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。		
	<input type="checkbox"/> 年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。		

【コメント】

部屋の使い方にもルールを設け、窓からの転落や災害時の避難を考慮し、ベッドなどの配置も決めて死角がないようにしている。年少児は職員室の近くに居室を設けて夜間はそれぞれに施錠して子ども自身が身を守るようにしている。

(5) 健康と安全

①	A27 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	b	A27
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。		
	<input type="checkbox"/> 手洗いやうがいの習慣が身に付くよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。		
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に理美容をしている。		
	<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。		
	<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。		

【コメント】

子どもの健康状態などの記録はパソコンを通して共有し、投薬についてもチェックカードを使って把握している。身だしなみと手洗いやうがいなどの励行と生活習慣や衛生管理について身につくよう指導を行っている。

②	A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a	A28
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。		
	<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。		
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。		
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。		

【コメント】

年2回の健康診断やインフルエンザの予防接種を行い、毎月身長や体重測定で健康状態を把握し、嘱託医と連携して健康な生活が送れるよう支援している。看護師を配置して医療的ケアを担い、精神疾患をもつ子どもには専門医を受診して治療にあたり、医師と一緒にケースカンファレンスを行うなど医療機関と連携し、心理面や情緒面にも配慮した支援を行っている。

(6) 性に関する教育

①	A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b	A29
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。		
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。		
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。		

【コメント】

子どもの成長に合わせて命の大切さ、体の大切さ、あなたを大切にするという徹底した指導を行っており、性病についても実際に写真を用いて研修を行い、病気の恐ろしさを教えている。性教育の必要性については安全委員会でも取り上げて女子・男子の子どもの発達段階に応じた適切な指導内容となるように研究している。

(7) 自己領域の確保

①	A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とすようにしている。	a	A30
	<input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。		
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。		
	<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。		
	<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。		
	<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。		
	<input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしがらなくても済むような場所に留める。		

【コメント】

一人ひとりの衣類などの年間購入費用を予算化して個々に購入しているが十分な金額とは言えず、費用の中から必要なものを購入し、おさがりも使用して外部からの寄付なども活用している。自分で購入した衣類には首のタグの部分に私物の「私」と記入して自分のものに愛着を持ってもらい、整理整頓など物を大切にすることを養えるようにしている。

②	A31 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	b	A31
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録（アルバム等）が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生い立ちの整理につながっている。		
	<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録（アルバム等）を整理している。		
	<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。		
	<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録（アルバム等）が手渡されている。		

【コメント】

一人ひとりのアルバムを作り、必要に応じて見せるようにしており子どもの成長に合わせて職員側で保管し、退所時に整理して完成したものを持たせている。アルバムの整理を通して子どもは生い立ちを知り、職員もその子への想いを語ってコミュニケーションが図られることを期待したい。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b	A32
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。		
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。		
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。		
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。		

【コメント】

子ども同士の喧嘩の場合は、職員は助言にとどめ本人同士の話し合いで解決させている。子どもが暴れどうしても抑えきれない場合は警察との連携を図っている。子どもの職員への暴力は、大きな音がした場合には近くの職員が直ぐ駆け付けるよう周知している。

②	A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b	A33
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。		
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。		

【コメント】

子ども間の暴力やいじめ、差別などが生じないよう、安全委員会、業務改善委員会、ユニット会議で定期的に話し合い、職員が子どもの生活の中に積極的に関わり、子ども同士の関係性を把握し未然防止に取り組んでいる。

③	A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性 がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	b	A34
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。		
	<input type="checkbox"/> 引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一に ならないようにしている。		
	<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。		
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされて いる。		

【コメント】

保護者が子どもを強引な引取りの場合には、警察との連携を図っている。職員に対して統一した対応について周知されていないため、対応ができるようなマニュアル等を作成し周知されることが望まれる。

(9) 心理的ケア

①	A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b	A35
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支 援プログラムが策定されている。		
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で 有効に組み込まれている。		
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョン が行われている。		
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。		
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。		
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を 行っている。		

【コメント】

心理療法士を配置し、心理支援の必要な子どものケースカンファレンス等には全職員が参加し、理解と共有を図りながら記録も残して支援している。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

①	A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	c	A36
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。		
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。		
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。		
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。		
	<input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。		

【コメント】

子どもの様子を学校と施設とが連絡ノートで毎日状況確認を行い、保護者参観時は職員が出席し面談に応じている。学力向上に向けて中学生以上の子どもには学習ボランティアをお願いしているが、施設内では落ち着いて勉強できる環境が十分とまでは言えないため、図書室を利用した学習室の整備が望まれる。

②	A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b	A37
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。		
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。		
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。		
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。		
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。		

【コメント】

中学3年生への学習指導や進路決定については、児童相談所、学校、保護者等との連携に努め、子どもの希望した進路決定をしている。退所後の子どもへは、家庭支援専門相談員が定期的に連絡をとり、状況確認したうえで生活面や就労面でも支援を行っている。

③	A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b	A38
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。		
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。		
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。		
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。		
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。		

【コメント】

学校での職場体験はあるが、施設として依頼する実習等はないので、積極的に職場体験実習のできる企業・会社等の開拓や確保に期待したい。

(11) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a	A39
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できよう図っている。		
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。		
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。		
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。		

【コメント】

家族との面会や相談には、家庭支援専門相談員が担当して信頼関係づくりを旨として対応し、家庭訪問する際には児童相談所が同行し連携対応している。

(12) 親子関係の再構築支援

①	A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b	A40
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。		
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。		
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。		

【コメント】

児童相談所と連携を図りながら、各家庭の事情等を踏まえ子どもの意思を尊重し、家庭支援専門相談員が中心になり親子関係の再構築に向けて支援している。

(13) スーパービジョン体制

①	A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	b	A41
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。		
	<input type="checkbox"/> 職員に対するスーパービジョンを定例的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。		
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。		
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 国が定める基幹的職員を設置している。		

【コメント】

外部でのスーパービジョン研修に職員が受講し、基幹的職員や心理担当職員が配置されているがスーパービジョンの体制が機能していない。スーパーバイズ体制の確立とともに職員相互に評価し、助言しあうといったチーム支援体制の確立に期待したい。